①市文化財「鳴海家住宅」、鳴海醸造店「菊乃井」

市文化財に指定されている鳴海家は、文化3年（1806年）創業の造り酒屋で、屋号を「稲村屋」といいます。住宅は建築されてから200年以上経過しており、高橋家とともに古い店構えを守り、伝統的な町並みに溶け込んでいます。座敷や庭園、酒蔵の見学ができ、店内ではお酒の試飲もできます。

※見学・試飲希望の方は、気軽にスタッフまで声をかけてください。
※11月～4月上旬頃まで酒蔵の見学は不可。
※工場のものには触れず、食べ歩きをしないでください。

◆営業時間　8時～16時30分
◆定休日　不定休
◆問合せ　0172(52)3321

②登録記念物「鳴海氏庭園」

幕末から明治大正と津軽地方を風靡した大石武学流の作庭様式を持つ庭園。明治20年（1887年）頃に小幡亭樹が作庭を開始し、その弟子の池田亭月が完成させたと伝えられています。

主屋の客間と座敷に北面する庭園で、沓脱石からV字形に配置された飛石は、礼拝石と離れ蹲踞へ向かって打たれており、池の周辺には、庭園の主景となるクロマツも植えられています。

※鳴海醸造店の敷地内にあります。
◆見学可　（6月～11月上旬まで）
◆定休日　不定休
◆問合せ　0172(52)3321

③津軽こみせ駅、秋田雨雀記念館

こみせ通りにある「津軽こみせ駅」では、物産の販売や観光情報の提供を行っているほか、黒石やきそばを食べられる軽食コーナーも設置しています。1階の物産コーナーでは、様々な地元商品を取り扱っており、中でも、期間限定で行う販売イベントが人気です。また、奥のステージでは津軽三味線奏者による生演奏を聞くことができます。

2階には明治生まれの文学者で名誉市民第1号の秋田雨雀を紹介する「秋田雨雀記念館」があり、無料で見学することができます。

そのほか、敷地内には各種イベントで使用される「じょんから広場」や音楽ライブなどができる「音蔵こみせん」、八甲田山系の伏流水が湧き出る「小見泉（こみせん）」など、多目的施設として多くの人に利用されています。

「津軽こみせ駅」
◆営業時間　8時30分～17時15分
◆定休日　火曜日（祝日の場合は直後の平日）及び1月1日
◆問合せ　0172(59)2080

「津軽三味線」生演奏（無料）
◆演奏時間　1日2回　①11時～　②14時～
各30分程度（冬期間は土・日・祝のみ実施）
※演奏時間は変更となる場合があります。詳しくは店舗までお問い合わせください。

秋田雨雀記念館

④「小見泉（こみせん）」（湧水）

◆八甲田で育まれた美味しい伏流水が湧き出ており、おいしい水を誰でも自由に汲むことができます。（無料）

⑤「じょんから広場」、「音蔵こみせん」（催事スペース）

◆多目的にご利用できますので、利用についてのご相談は、津軽こみせ駅までお問い合わせください。

⑥黒石ゆかりの作曲家私設資料館

上原げんと・賢六・隆治三兄弟のほか、山田栄一や明本京静などの資料を集めた私設の資料館です。

石原裕次郎や美空ひばりなどにまつわる品々が多数展示されています。また「かぐじ広場」には、黒石ゆかりの四大作曲家の碑が建立されています。

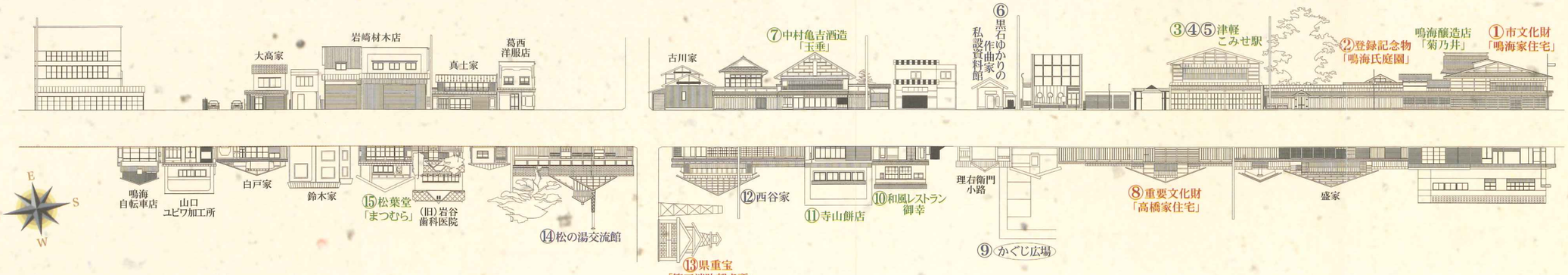
◆見学可　（土、日、祝、祭り期間中のみ。見学無料）
◆開放時間　10時～15時　◆定休日　不定休

⑦中村亀吉酒造「玉垂」

大正2年（1913年）創業で、NHK大河ドラマ「いのち」の舞台となった酒造店です。店舗前に吊るされた酒林は日本一と自負する大きさを誇り、店内ではお酒の試飲や一部見学もできます。

※見学、試飲希望の方は、気軽にスタッフまで声をかけてください。

◆営業時間　8時30分～17時
◆定休日　土、日、祝
◆問合せ　0172(52)3361



・各施設名の色について
茶色…文化財
緑色…飲食店、お土産等販売
青色…その他の立ち寄りスポット

※本リーフレット掲載内容は令和元年9月末日現在のものです。

⑧重要文化財　高橋家住宅

高橋家は、代々「理右衛門」を名乗る黒石藩御用達の商家であったが、米穀を扱っていたことから、屋号を「米屋」といいます。

その傍ら、味噌、醤油、塩などの製造や販売をしていました。同家に伝えられている古文書によると、中町に住み着いたのは享保2年（1717年）で、宝暦5年（1755年）に、現在の屋敷を購入したと言われています。建築されたのは、住宅・米蔵・味噌蔵・文庫蔵ともに宝暦13年（1763年）頃とされています。

構造は桁行21.8メートル、梁間12.7メートル、一部2階、切妻造、妻入。屋根は、当初「長柾葺（ながまさぶき）」でしたが、防火のため昭和の初期に亜鉛引鉄板に葺き替えられました。昭和48年2月に住宅が国の重要文化財に指定され、さらに平成16年2月、米蔵・味噌蔵・文庫蔵が追加指定されています。現在では、喫茶店を営み、井戸水でいれた美味しいコーヒーや手作りあんみつを庭園でいただくことができます。

◆営業時間　9時～16時（4月下旬～11月末頃まで）
◆定休日　不定休
◆問合せ　0172(52)5374

⑨「かぐじ広場」

高橋家住宅の脇のこみせ風アーケードがかかる通路の奥を行くと「かぐじ広場」に繋がります。憩いの場、安らぎの場として多くの市民が利用している広場で、通路内には黒石商業高校の生徒たちが描いた作品が展示してあります。広場内には他にも、2人の男女がこの場所を訪れると恋が叶うようにと願いを込めて建立した「恋よされモニュメント」や、「黒石ゆかりの四大作曲家の碑」もあります。

※かぐじとは
母屋の裏側にある敷地の奥側の余剰空間のこと

⑩和風レストラン御幸

こみせ通りにある和風レストラン御幸は、お子様からお年寄りまで楽しめる創作料理メニューが豊富。ご当地グルメ「黒石つゆやきそば」、「黒石やきそば」も食べられます。

◆営業時間　平日　11時～14時30分・17時～20時
休日　11時～14時30分・17時～20時30分
※営業時間は変動する場合があります。
◆定休日　不定休
◆問合せ　0172(52)2558

⑪寺山餅店

文政7年（1824年）創業、一子相伝の技が190年以上続く歴史ある餅店。「四半餅」、「抹茶生くりぃむ大福」や新商品「ちーずりんご餅」などが人気商品で、お年寄りから子どもまで市民に長く愛され続けているお餅は最高のおいしさです。

◆営業時間　8時～19時
◆定休日　元日
◆問合せ　0172(52)2826

⑫こみせ美術館（西谷家）

元造り酒屋だった建物を、大正2年（1913年）に弘前から移築し、呉服屋を営んでいました。現在は、こみせ美術館として一部を開放しており、古いこけしやねぶた絵、陶器、農具などの昔懐かしい品々が展示されています。

※NPO法人横町十文字まちそだて会開催のまち歩きツアー内で見学可能です。
詳しくは松の湯交流館までお問い合わせください。

⑬『県重宝市消防団第三分団　第三消防部屯所』

大正13年に建築された屯所は、洋風デザインを取り入れ、望楼を載せた木造2階建ての建物です。日本の現役車両では最も古い消防自動車が配置されています。

※見学可（外観のみ）

⑭松の湯交流館

こみせの屋根から突き出た松の木がとてもシンボリックな建造物。長く銭湯として親しまれた「松の湯」が、「土の人」と「風の人」のふれあう新たな交流施設として生まれ変わりました。貸しスペースのほか、黒石の観光情報の収集やまち歩きの拠点として、ぜひお立ち寄りください。

また、交流館に隣接する「蔵」では「十文字カフェ」が営業しています。マレーシア料理やヴィーガン料理、セレクト雑貨などを販売しています。

◆営業時間　9時30分～18時
◆定休日　年末年始
◆問合せ　0172(55)6782
※カフェ営業時間　11時～16時（月曜定休）

⑮松葉堂まつむら

創業100余年の和菓子店。通称「梅干し菓子」と呼ばれる、白餡の求肥饅頭を、塩漬けした赤紫蘇の葉で包んだ「干梅」は、黒石名物でもあります。

◆営業時間　9時～17時
※閉店時間は変動する場合があります。
◆定休日　不定休
◆問合せ　0172(52)3574